

## ビオトープへのアメリカザリガニの侵入に苦戦中

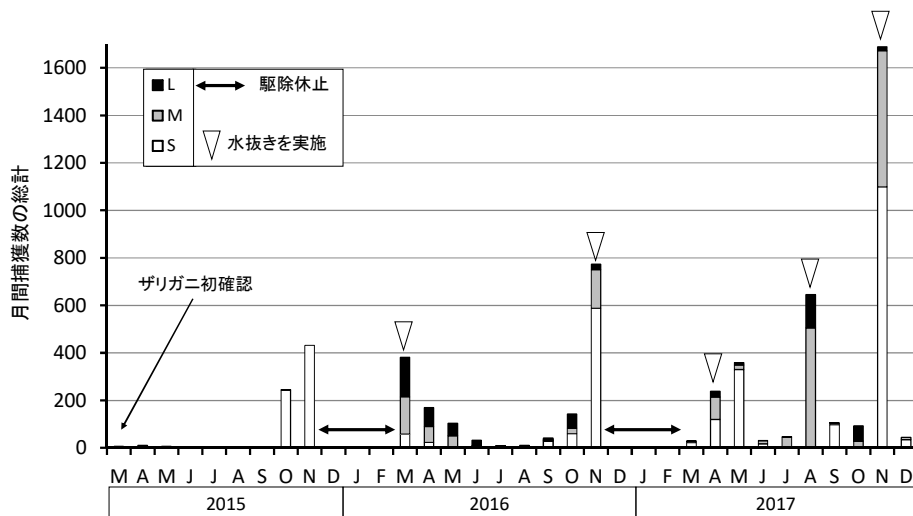
市川憲平（林田にタガメの里をつくる会）  
大庭伸也（長崎大・教育）

タガメとゲンゴロウ（ナミゲン）は止水性水生昆虫の代表格で、かつては身近な田んぼの生きものだったが、農業と農村の近代化の過程で激減し、いまでは両種とも環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。環境省レッドリストに絶滅危惧種、準絶滅危惧種として選定された水生甲虫類は、2007年版から2012年版にかけて34種から83種へと激増した。同時期に西日本のゲンゴロウ生息地はさらに減少し、タガメとゲンゴロウの両種がともに繁殖しているホットスポットは、わずかな地域を残して西日本では姿を消した。

そのような状況下で、私たちは近畿地方でおそらく最後と思われるタガメ、ゲンゴロウのホットスポットAを、2012年から保全している。そこは個人所有の放棄田と小さなため池が散在する湿地で、地主の許可を得て湿地全体をマニアからの乱獲を防ぐために高さ2mの金網で囲い、3か所の放棄田には常時湛水した。これらをビオトープとして維持管理しながら調査を続けてきた。毎年、タガメ、ゲンゴロウともに順調に繁殖し、他にも多くのレッドリスト掲載種が生活する湿地になったが、2015年3月にビオトープ内の端のため池で小型のアメリカザリガニ7尾が見つかった。

アメリカザリガニは水生昆虫類の成虫や幼虫を捕食するため、これが増えてくるとタガメやゲンゴロウが消えてしまう。早速駆除のための作業を始めた。ビオトープ内の他の池や放棄田にアメリカザリガニが拡散するのを防ぐために、その池の水位を下げ、手網によるすくい取りやトラップによる採集を続けこれまでに約5600尾を駆除したが、小さな個体まで全て駆除することはできず、ザリガニの生息数は、増減を繰り返した。そして、最初に侵入した池での駆除に手間取っている間に、2017年12月の調査で常時湛水した放棄田でも小型のアメリカザリガニ4尾が見つかった。

最初にザリガニが見つかった池にはほとんど植物が茂っていないが、新たに見つかった放棄田にはガマなどが茂っている。どのようにしたら駆除できるのか、ホットスポット全体への侵入をどのようにしたら防げるのか、現在苦慮している。



最初に侵入が確認された池のアメリカザリガニの月間駆除数